様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年６月２４日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2009～2010
課題番号：２１８３０００５
研究課題名（和文）批判的実在論に基づく福祉国家再編分析-オーストラリアを事例として
研究課題名（英文）An Analysis of the Welfare State Realignment in Australia: From the Point of Critical Realism

研究代表者：
加藤　雅俊（KATO　MASATOSHI）
立命館大学・産業社会学部・准教授
研究者番号：１０５４３５１４

研究成果の概要（和文）：本研究は、多様な政策対応を示す福祉国家の再編プロセスを分析するための理論枠組として、アイデアを媒介とした構造と主体の相互作用に注目する「構成・戦略論的アプローチ」に基づくモデルを提示する。具体的には、各国に共通した段階的特徴を捉えるための「段階論」、各段階における多様性を捉えるための「類型論」、再編プロセスの政治的ダイナミズムを捉えるための「動態論」を提示する。そして、これらのモデルを用いて、オーストラリアにおける福祉国家再編プロセスを分析し、その特徴および政治的ダイナミズムを明らかにする。

研究成果の概要（英文）：To analyze the welfare state realignment, I propose the theoretical frameworks which are based on Constitutive-Strategic Approach. This approach pays attention to the interaction of structure and agency through idea. So, it focuses on not only the economic-social base of the welfare state, but also the political base. First, I propose the diachronic comparative frameworks to analyze the common features in the developed countries. Second, I propose the synchronic comparative frameworks to analyze the diversity of the welfare state. Third, I propose the new theory of institutional change to analyze the political dynamism of welfare state change. Finally, I use these frameworks to understand the features and dynamism of the welfare state realignment in Australia.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	990,000	297,000	1,287,000
2010 年度	660,000	198,000	858,000
総　計	1,650,000	495,000	2,145,000

研究分野：比較政治学
科研費の分科・細目：政治学・政治学
キーワード：比較政治理論、比較福祉国家論、福祉国家再編、批判的実在論、オーストラリア型福祉国家

１．研究開始当初の背景

比較福祉国家研究は、福祉国家の「特徴把握」および「動態の説明」という二つの理論的課題から構成されてきた。しかし、研究の分業が進展することで、各論点に関する知見が蓄積される一方で、「福祉国家の従属変数問題」が示唆するように、研究者間で各課題の知見が十分に生かしきれていないという現状がある。例えば、「福祉国家の新しい政治」論では、政策レベルの持続性や公共支出福祉国家の持続性を前提として、なぜそうなったかに関する説明に重点が置かれてきた。「福祉レジーム論」では、ある特定の時点における福祉国家の特徴をどう捉えるかという論点に注目が集まってきた。これらの諸研究には、現代福祉国家に関するある側面を明らかにした点で大きな意義がある。

しかし、政治アクターの主体的な対応によってもたらされた政治経済システムとしての福祉国家の変容という視角が欠如しているため、これらの先行研究は、福祉国家の全体像の解明という点で不十分といわざるを得ない。すなわち、第一に、福祉国家を取り巻く環境は、経済のグローバル化の進展およびポスト産業社会への移行など大きく変化しており、第二に、この環境変化への各国の対応は、政治アクターの主体的な行為の結果として、多様性を示しているのである。従って、現代福祉国家の全体像を解明するためには、まず「特徴把握」という論点に関して、ある段階と現在の段階における共通性と差異を明らかにし（通時比較）、かつ、特定の段階における多様性を明らかにする必要があり（共時比較）、「動態の説明」という論点に関して、特徴把握に関する知見を踏まえた上で、各国で示される多様な発展パターンを説明していくことが必要となる。つまり、比較福祉国家研究は、各課題に関する知見を射程に収めた〈総合的な理論枠組〉を必要としている。

２．研究の目的

本研究の第一の目的は、多様な政策対応を示す福祉国家再編プロセスを分析するための理論枠組を提示することにある。1970 年代以降、経済のグローバル化の進展およびポスト産業社会への移行という変容圧力に直面し、安定的な経済成長を支えてきた政治経済システムとしての福祉国家は、各国で多様な政策対応を示しながら、大きな変容を遂げてきた。本研究では、再編プロセスにおける政治的ダイナミズムを捉えるために、構造と主体の相互作用に注目する「批判的実在論」に依拠した上で、（１）福祉国家の変容の特徴を捉え、（２）なぜ変容が生じたかを説明するための理論モデルを提示する。

本研究の第二の目的は、理論研究で得られたモデルをもとに、先行研究では十分に明らかにされていない 1980 年代以降のオーストラリアにおける労働市場政策・雇用政策の変容プロセスを分析し、その特徴および政治的ダイナミズムを明らかにすることにある。具体的には、ホーク・キーティング労働党政権の政策対応、およびハワード連立政権の政策対応の共通性と差異を明らかにし、再編をもたらした政治的ダイナミズムを明らかにする。

本研究は、理論研究および実証分析の作業を通じて、福祉国家の再編をもたらした要因を解明し、ポスト福祉国家ガバナンスの特徴を明らかにすることで、現代政治学への理論的貢献をなすことを目的としている。

３．研究の方法

本研究は、（１）批判的実在論における理論的検討、（２）比較福祉国家分析のための理論枠組の提示、および（３）オーストラリアにおける労働市場政策・雇用政策の変容に関する実証分析という三つの研究課題から構成されている。これらの課題を効率的に遂行するため、理論的課題と実証分析の相互作

用を常に念頭に置きながら、研究期間の前半では理論的課題を中心に研究を進め、後半では実証分析に重点を置く。

まず研究期間の前半では、（１）に関して、イギリス政治学における批判的実在論の展開に注目し、自らのアプローチ（構成・戦略論的アプローチ）の特徴を明らかにする。（２）に関して、「特徴把握」という課題について、機能的代替性を重視した理論モデルを提示し、「動態の説明」という課題について、アイデアの役割を重視した理論モデルを提示する。（３）に関しては、国内で入手困難となる一次資料を収集するために現地調査を行う。

研究期間の後半では、理論的課題（（１）および（２））に関して、前半で得られた研究成果を踏まえて、さまざまな研究者とディスカッションを行うことで、更なる精緻化を目指し、事例分析（３）に関して、理論枠組を念頭に置くことで、収集してきた資料を効率的に選択し、実証分析を進めていく。

４．研究成果

本研究は、理論的研究の成果として、アイデアを媒介とした構造と主体の相互作用に注目する「構成・戦略論的アプローチ」に基づく、福祉国家再編分析のためのモデルとして三つの理論枠組を提示した。

具体的には、まず第一に、各国に共通した段階的特徴を捉えるための「段階論」として、ケインズ主義的段階から競争志向の段階へと福祉国家が変容していることを確認した。前者は、埋め込まれたリベラリズム、フォーディズム的発展様式、性別役割分業を前提とした雇用形態および家族形態の安定性、階級政治・政党政治レベルにおける経済成長へのコンセンサスによって特徴付けられる。後者は、経済自由主義優位の国際経済体制、ポストフォーディズム的発展様式、雇用形態および家族形態の流動化、競争力の確保や個人の自律性や社会的包摂などの強調による支持調達によって特徴付けられる。

第二に、各段階における多様性を捉えるための「類型論」として、ケインズ主義的段階の四類型から、競争志向の段階の二類型へと変容していることを確認した。すなわち、前者は、三者協調に依拠した社民コーポラティズム、社会パートナー間の協調を重視する社会的市場経済、市場交換を重視する市場リベラル、国家による調整に依拠した国家主導経済の四つのモデルに整理される。後者は、市場メカニズムを重視した交換モデルおよび三者協調を重視した協調モデルに整理される。

第三に、再編プロセスの政治的ダイナミズムを捉えるための「動態論」として、制度変化プロセスにおけるアイデアの二つの役割に注目したモデルを提示した。すなわち、本モデルの特徴は、制度変化プロセスを、アイデアによってアクターの利益・選好が形成される局面（目標設定局面）と、目標達成のためにアクターがアイデアを利用して主体的に行動する局面（支持調達局面）という二段階に整理した上で、アイデア・利益・制度の相互作用を分析する点にある。

そして、本研究は、事例分析の成果として、理論研究で得られたモデルを用いて、オーストラリアにおける福祉国家再編プロセスを分析し、その特徴および政治的ダイナミズムを明らかにした。具体的には、ホーク・キーティング労働党政権とハワード連立政権は、従来型の「賃金稼得者型福祉国家」からの離脱という共通性を持つ。しかし、前者が政府と社会パートナー間の協調を重視したのに対して、後者は市場メカニズムを重視していた点で、両政権は大きく異なる。これらの対応の差異が、党派性の差異だけでなく、各政権を支える理念の差異に由来していることを確認した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計６件）

① 加藤雅俊「オーストラリアにおける福祉レジームの変容－社会変容への二つの対応－」新川敏光（編）『福祉レジームの収斂と分岐』ミネルヴァ書房、2011年（近刊予定）、査読無し。

② 加藤雅俊「福祉国家再編分析におけるアイデア・利益・制度（２）－制度変化の政治学的分析に向けて－」『北大法学論集』62巻2号、2011年（近刊予定）、査読無し。

③ 加藤雅俊「福祉国家再編分析におけるアイデア・利益・制度（１）－制度変化の政治学的分析に向けて－」『北大法学論集』61巻4号、1－52頁、2010年、査読無し。

④ 加藤雅俊「オーストラリア型福祉国家の再編分析・序説－二つの新自由主義的改革？－」『新世代法政策学研究』6巻、203-253頁、2010年、査読無し。

⑤ 加藤雅俊「日本型福祉国家の比較分析に向けて-近年の業績を手がかりとして-」『新世代法政策学研究』4巻、289-326頁、2009年、査読無し。

⑥ 加藤雅俊「制度変化におけるアイデアの二つの役割－再編期の福祉国家分析を手がかりに」小野耕二（編）『構成主義的政治理論と比較政治』ミネルヴァ書房、143-177頁、2009年、査読無し。

〔学会発表〕（計３件）

① 加藤雅俊「福祉国家再編における労働市場政策の変容とその要因－オセアニア両国を事例として－」2010 年度日本政治学会研究大会（中京大学、2010 年 10 月 10 日）

② 加藤雅俊「構成・戦略論的アプローチに基づく現代福祉国家分析－オーストラリアにおける福祉国家再編を事例として－」北大政治研究会（北海道大学、2009 年 12 月 17 日）

③ 加藤雅俊「現代政治学におけるアイデア的転回について－理論的意義と経験分析への適応可能性－」2009 年度日本政治学会研究大会（日本大学、2009 年 10 月 11 日）

６．研究組織

(1)研究代表者

加藤　雅俊（KATO　MASATOSHI）
立命館大学・産業社会学部・准教授
研究者番号：10543514